

北海道は日高食肉センター整備計画の承認にあたり、北海道内の同業他社の合意が必要とのことから、日高食肉センターに対して北海道食肉センター運営協議会との事前協議を求めています。この協議も3月末には終了、国との協議も終了し6月に北海道から日高食肉センター整備計画の承認があり、事業着工が可能となりました。

昨年12月定例会の行政報告の際は、北海道からの日高食肉センター施設整備計画に対する承認が早い時期に得られるとの見通しから、平成24年4月着工、平成25年8月操業開始の見込みと報告していましたが、この様に北海道の承認が6月となったことから大幅なスケジュールの変更が生じております。

建設予定地である西泊津地区の町有地については売買面積を13万5620・68㎡とし、813万7240円で売却は終了し、8月3日に所有権移転の登記も終了しております。

現在、株式会社日高食肉センターは、開発行為許可申請の手続きを進めているところであり、順調に進むと11月には工事着手の見込みであり、日高食肉センターの操業開始は平成26年春頃を予定しているとの事です。日高食肉センターの企業誘致につ

いては、町民の皆さんにも大変ご心配をおかけいたしました。報告のとおり北海道の承認もおり操業に向けた準備も着々と進んでいるところで

この間、食肉センターの操業に関しては大きな期待が寄せられる一方、様々な心配の声も頂戴いたしました。が、新冠町としては株式会社日高食肉センターの株主でもあることから、町民の利益を代表する株主として、会社の運営に関わってまいりたいと考えておりますので、ご安心を頂きたいと思っております。

農産物の育成状況と販売

状況

町の基幹作物であります水稲ですが、北海道統計情報センターによると8月15日現在の道内の作柄状況は「やや良」が見込まれております。

これは、田植え期以降の好天で分げつが促進されたことや、幼穂形成期も高温で経過したこと、穂数やもみ数が平年に比べてやや多く、登熟は稔実や粒の肥大・充実が平年並みに見込まれるためであります。

日高管内におきましては、「穂数」は「少ない」、「1穂当たりのもみ数」は「やや多い」、「全もみ数」は「やや少ない」、また「登熟」は「やや良

と見込まれ、作柄は「平年並み」が見込まれております。

本町においては、日高農業改良普及センターが8月に実施した不稔調査において、圃場間における差は見られるものの、不稔は平年よりも「少ない」との報告を受けております。

また、同普及センターによると8月15日現在の牧草の状況ですが、4月上旬までの低温と融雪の遅れによって萌芽（ほうが）が遅れましたが、その後の高温により生育は平年並みに回復し、現在は三番草の収穫が始まっております。

生育は順調ではありますが、降水量の不足により平均収量は平年よりもやや少ない傾向にあります。

また、飼料用とうもろこしは、春先の低温、多雨による起耕作業の遅れにより播種作業が遅れておりましたが、その後の気温上昇により生育は平年並みに回復し、登熟も進んでいると見込まれております。

次に8月末現在における新冠町農協取り扱いの農作物の販売状況について申し上げます。

9月以降の収穫となる水稲及び12月末に販売額が確定する秋まき小麦を除く総販売額は、2億8900万円、前年と比較してマイナス4%、1200万円下回る状況で推移して

おります。

大きな要因には、基幹作物として生産を奨励し、産地化が定着してきました。ピーマンにおいて、作付農家数、面積ともに前年を上回り、好調に販売量を伸ばしておりますが、今年の販売単価が全国的な数量不足であった昨年・一昨年の販売単価に及ばず、平年より僅かに高い程度で推移していることが挙げられます。

なお、ピーマンについては生育が安定し、引き続き順調に出荷されておりますので、7年連続の3億円突破が十分に期待できます。

以上が農作物の生育状況と販売状況であります。

黒毛和牛繁殖雌牛の牛白血病の発症と対策

町有牧野におきましては、黒毛和牛の一貫肥育生産を通じ、肉牛農家の経営安定や生産リスクの軽減、和牛産地としての地位向上を図るため、実証展示施設としての役割を担い、肥育技術の向上と生産者への情報提供に努めており、近年は枝肉の市場評価が高く、A4以上の上物率は7割を超えるまでに定着しております。本年7月31日、放牧中の妊娠牛群の巡回点検におきまして、活気低下の著しい雌牛1頭を発見し、日高中

行して実施した繁殖牛全83頭と6か月齢以上の育成牛17頭の計100頭の検査結果が判明し、繁殖牛40頭に抗体陽性の診断を受けたところでございます。

町有牧野では、平成17年度にも牛白血病がまん延した事例があり、優良な繁殖後継牛を育成するため、町費を投じ改良を重ねてきた所ではございました。が、生産者からお預かりをした貴重な預託牛へ、町有牛からウイルス感染させることにはなりませんので、苦渋の選択ではございました。が、陽性反応のあった25頭全てを淘汰する清浄化対策を行った経過でございます。

このたび感染が確認されました抗体陽性牛40頭につきましては、改めて血液検査を実施し、白血球の異常増殖が見られる発症リスクの高い牛や高齢で能力低下が見られる繁殖牛から順次淘汰を行うとともに、妊娠牛については子の分娩後に淘汰をするなど、経済的な損失を極力抑える工夫をしながら清浄化に向けた対策を講じて参ります。

なお、本対策によって町有牧野の繁殖規模が半減することとなりますが、実証展示施設として単に現体制を維持するのではなく、本年度から運営しております和牛センターでの



▲肥育センターで預託されている黒毛和牛

教育長行政報告

学校教育の推進

はじめに、教育委員の活動について申し上げます。

8月末の2日間で、小中学校及び認定こども園ド・レ・ミの学校訪問を行い、授業の様子を参観し、学校の経営の推進状況について理解を深めるとともに、議会へ報告した評

価報告書に関わり、今後の取組について指導・助言をしてまいりました。次に、確かな学力の育成についてですが、4月に実施した、全国学力・学習状況調査の結果について道教委から資料が提示されましたので報告します。

今年度から理科が加わり、国語科、算数・数学科の3教科で実施されました。

全道においての学力の平均は、全ての教科で、ほぼ全道平均に位置する結果となりましたが、中学校においては、全ての教科で全道はもとより全国平均を上回っており、特に国語科では、全国平均より7〜13ポイントと大幅に上回り、総合すると全道上位、全国レベルに位置する結果となりました。

新冠町の結果ですが、小学校では、全ての教科で、ほぼ全道平均に位置する結果となりましたが、中学校においては、全ての教科で全道はもとより全国平均を上回っており、特に国語科では、全国平均より7〜13ポイントと大幅に上回り、総合すると全道上位、全国レベルに位置する結果となりました。

また、9月10日には、新冠町教育研究協議会の一次研究会が行われ、教科部会毎に分かれた研究授業を通して、これまで積み上げた、学力や命を大切に指導を一層高める指導方法等の研究協議が行われました。

3点目は、豊かな心身の育成についてであります。